

2020年度年末手当 妥結！ 基準内賃金×1.6カ月！

JR貨物労組は本日2020年度年末手当の最終交渉を行ない、「基準内賃金×1.6カ月」で妥結しました。今回もコロナ禍での闘いとなり職場強化を掲げて、職場集会や炊き出し等の取り組みを全国で展開してきました。自らが感染するかもしれない不安を抱えながらも『指定公共機関』として列車を止めないように、感染対策を行ない業務を遂行してきました。また老朽化した設備のなか慢性的な要員不足であるにも関わらず、昼夜を問わず私たち青年部員が最先頭で安全・安定輸送を担ってきたことを会社に訴えてきました。

貨物労組が要求していた2.9カ月とは程遠く、到底納得できるものではありませんが第4回交渉からの「リーマンショック後並み」という考えから、1.6カ月まで押し上げたのはまぎれもなく全国の青年部員がコロナ禍の中でも職場からの闘いを最後まで展開してきた成果です！

**経営陣は黒字ばかり気にして
社員軽視をしているようにしか見えない！
列車を走らせているのは誰なのか再認識するべきだ！**

経営陣は日々の収支で一喜一憂しているようだが現場は日々の業務で疲弊しきっている！職場は必死になって感染予防に努めてきた結果として感染者0が続いている。感染者が0であるからこそ列車を止めることなく社会的使命も果たし100%以上の業務を私たちは担ってきた。これは、会社施策だけではなく我々の努力の賜物である。最近ではブランディングに力を入れているが、社外よりもまずは社内に対して投資すべきではないのか！これでは仕事に対するモチベーションが上がらず、社外には取り繕った建前ばかりつくって、見栄えが良くても社内がボロボロでは企業としての将来の展望が開けない。これでは「選択されない企業」に向かって走って行くだけである。

会社の言う「頑張った者が報われる」はいつ来るのでしょうか？評価においては評価者ごとに評価基準がバラバラとなっており日頃から頑張っている人が報われていないというなどが全国で起きている。会社はまだ我々のことを『人材(材料)』としか見ていない！私たちは『人財(財産)』であり現場があって会社は成り立っていることを経営陣に認識させるためにも、全青年部員団結してこれからも闘っていきましょう。

青年部員の生の声を聞き会社施策に反映させろ！